

平成30年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第1号）	並	並
	縞葉枯病（技術情報第1号）	少	少
	ツマグロヨコバイ	並	並
	萎縮病	並	並
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	少	少
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	並	並
	ハダニ類（防除情報第6号）	多	多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	やや多	やや多
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	並	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	ヤノネカイガラムシ	並	並
びわ	がんしゅ病	少	少
	灰斑病	並	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	黒星病（防除情報第7号）	やや多	やや多
	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病	やや少	やや少
	黒とう病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類	多	多
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	やや少	やや少
	チャノホソガ	やや多	やや多
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	やや少
	クワシロカイガラムシ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.2%）。
- イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%）。
- ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。好適条件等の詳細は病虫害防除所ホームページを参照）。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	—	—	4	4	—	—	—
6月6日	●	●	●	—	—	●	—	●	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	●	—	●	—	—	—	—	—	—	—
6月12日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

発生指標	?:判定 不能	—:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ 並
縞葉枯病 少

(2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（0.1頭）、発生圃場率は30.8%（42.1%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（過去10か年平均 発生株率0.0%、発生圃場率0.2%）。
- イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.4頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。
- ウ ヒメヒメトビウンカ（第1世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況については平成30年6月14日付病虫害発生予察技術情報第1号による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度	ツマグロヨコバイ	並
	萎縮病	並

(2) 予報の根拠

- ア 5月下旬のイネ科雑草地（2地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世代）についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%（0%）であった。
- イ 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は20.5%（28.8%）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.5頭（2.0頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

(2) 予報の根拠

- ア セジロウンカは5月6日にネットトラップ（諫早市）で初確認した。トビイロウンカは飛来を確認していない。
- イ 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は15.4%（23.5%）であった。トビイロウンカの発生は認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.7頭）であった。トビイロウンカは発生を認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する（病虫害防除所ホームページ参照）。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

- ア 6月5日にフェロモントラップ（諫早市）で誘殺を初確認した。
- イ 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、早期水稲における発生は認めなかった（過去10か年平均の食害株率は0.0%、10㎡当たり成虫数の平均は0.00頭）。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲における食害株率は発生を認めなかった（発生を認めない）。成虫及び幼虫の発生は認めなかった（過去10か年平均の成虫の10㎡当たり虫数0.0頭）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する（病虫害防除所ホームページ参照）。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度	少
------	---

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（29筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率6.4%、発生圃場率37.7%）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（29筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.0%）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実にを行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床ではビニール展張を行う。
- ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

3. ハダニ類

平成30年6月14日付け**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（11筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は13.7頭（23.9頭）、発生圃場率は72.7%（71.9%）であった。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.5%（0.1%）、発生圃場率は11.1%（5.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めな

い)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は8.5%(6.1%)、発生圃場率は30.6%(42.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないため本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

マシン油乳剤を使用する場合は、品質低下を招くことがあるため、6月までに散布する。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(36筆)の結果、被害果率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は2.8%(0.6%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年よりやや多く推移している(図)。

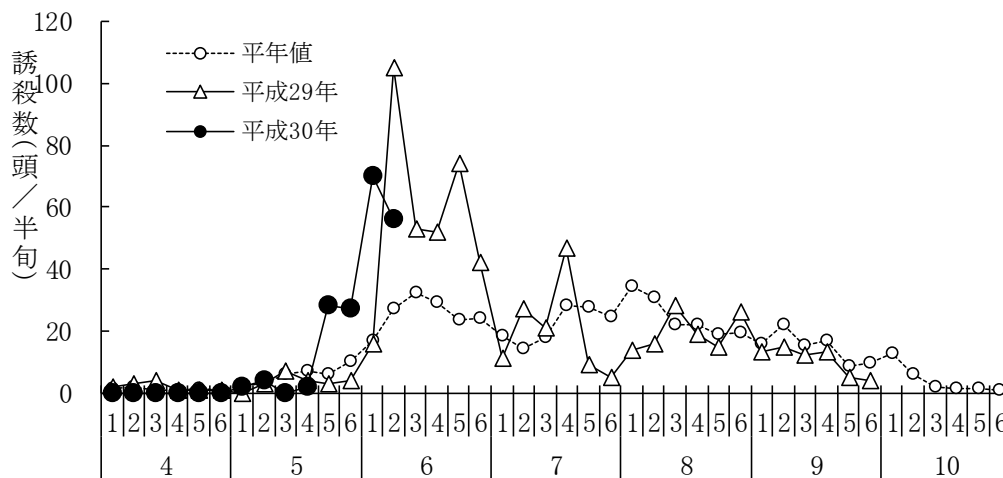


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半月)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年より7~12日程度早まる見込みである(下表)。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第3世代	6/23	6/25	7/2	6/25	7/6
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
〃 (前年)	6/30	6/29	7/7	7/2	7/8
第4世代	7/13	7/15	7/22	7/14	7/26
〃 (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
〃 (前年)	7/17	7/17	7/25	7/20	7/26
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2018年6月11日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(寄生果率0.0%、発生圃場率0.3%)。

(3) 防除上注意すべき事項

気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した初発生の予測日ならびに各地区の防除適期(有機リン剤の場合、初発日の40日後)は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測(2018年)

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	巖原	長崎 (平年値)
有機リン剤防除日	6/14	6/16	6/16	6/15	6/15	6/15	6/17	6/17	6/15	6/17	6/18	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1: 方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2: 初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日~4月30日)を用いて算出し、防除適期は初発日の40日後とした。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.7%、発生圃場率31.3%)。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は4.3%(5.7%)、発生圃場率は60.0%(71.3%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率2.5%)。

イ 諫早市小船越町、長崎市茂木のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している(図)。

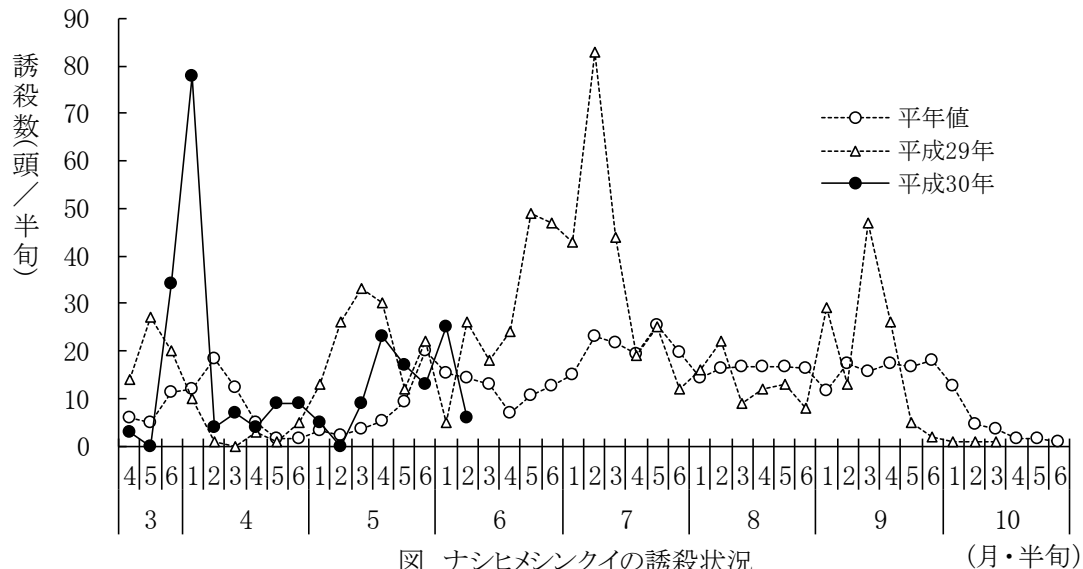


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

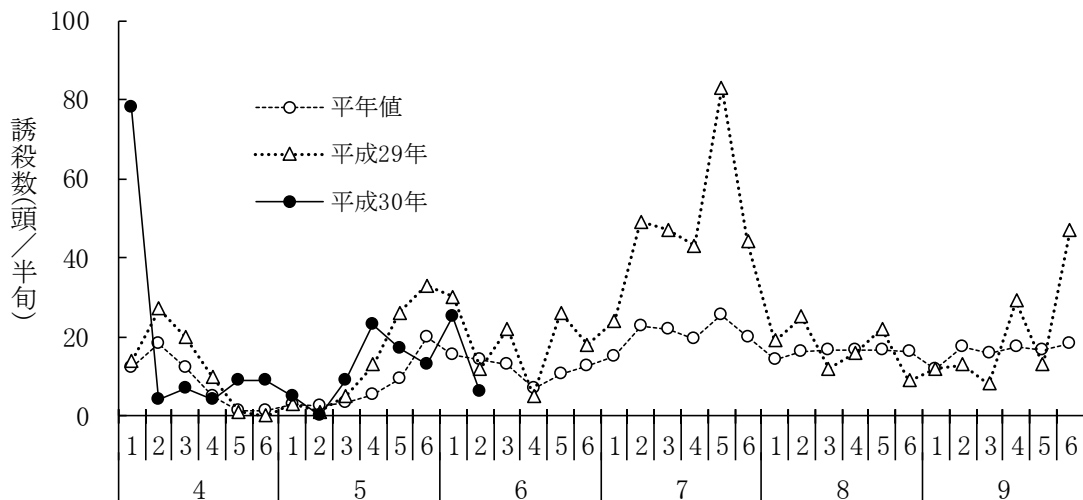


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(長崎市茂木:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 平成30年6月14日付け病害虫発生予察防除情報第7号による。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去2か年も発生を認めない)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率6.3%)。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、葉では発病葉率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は25.0%(14.6%)、また果房では、発病果房率は2.3%(0.4%)、発生圃場率16.7%(6.3%)で、一部多発生圃場があった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害果房率0.2%、発生圃場率5.2%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや多く推移している(かんきつの項参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

袋かけ前の防除を徹底し、多発圃場では袋かけ後にも1~2回散布する。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市、南島原市、西海市で平年より多く推移した。(下図)。

イ 防除所調べにおいて、一部かんきつ園場への飛来を認めた。

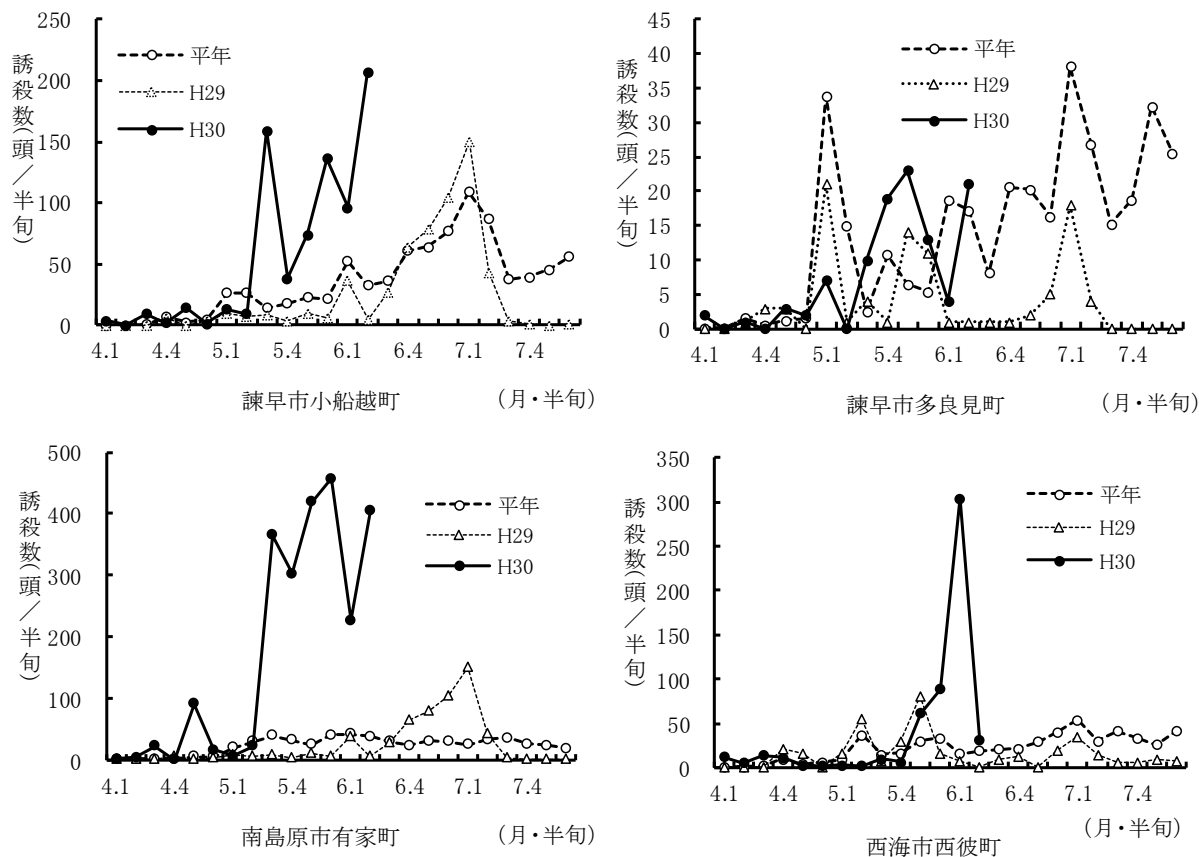


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期や飛来数は園によって差があるので、こまめに見廻って早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除する。

イ ハウス栽培では、開口部を防虫網(4mm目以下)で被覆し、侵入を防ぐ。また既に被覆済みのハウスでは、防虫網の破損がないか点検・補修する。

ウ なし等では袋かけ作業が遅れないようにする。

エ 特に収穫時期の近い品目は農薬使用基準に留意する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、1m²当たり発病葉数は1.3枚(1.4枚)、発生圃場率は47.4%(28.8%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）18.7頭（28.0頭）、発生圃場率は73.7%（92.5%）であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡あたり巻葉数0.0枚、発生圃場率4.4%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、5月3半旬にピークが見られ、平年よりやや少なく推移している（図）。

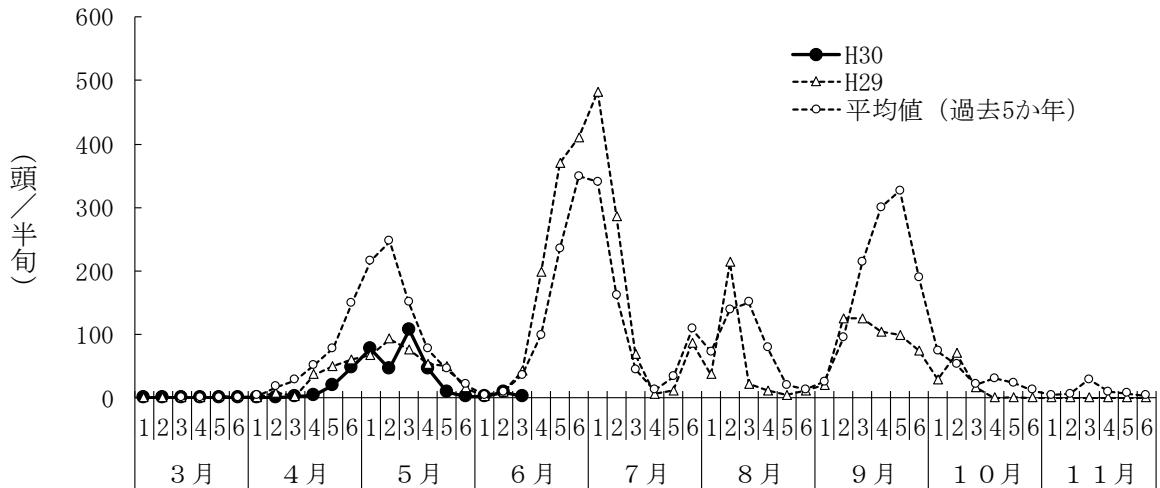


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は1.9枚（0.1枚）、発生圃場率21.0%（5.0%）で、一部多発圃場があった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、5月6半旬にピークが見られ、平年より多く推移している（図）。

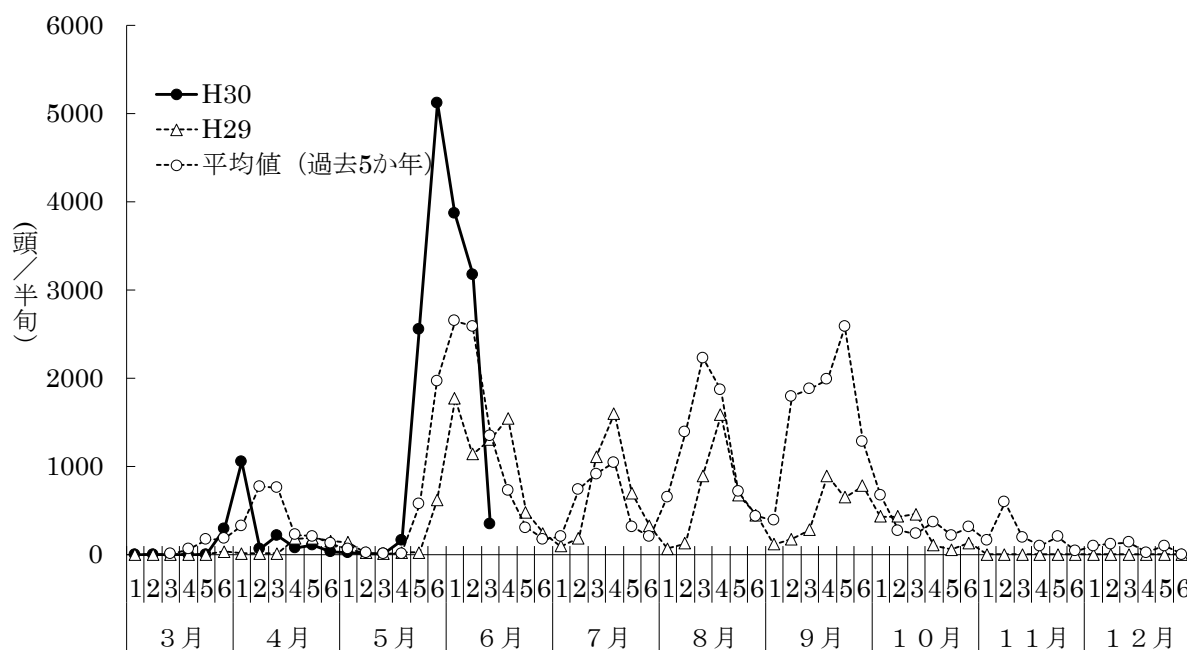


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップにより発生消長を把握し、巻葉前に薬剤防除する。

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は10.7%（2.8%）、発生圃場率は52.6%（26.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は1.7頭（4.0頭）、発生圃場率は21.1%（60.6%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は11.0%（7.8%）、発生圃場率は36.8%（43.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い園では、第2世代の防除を行う。

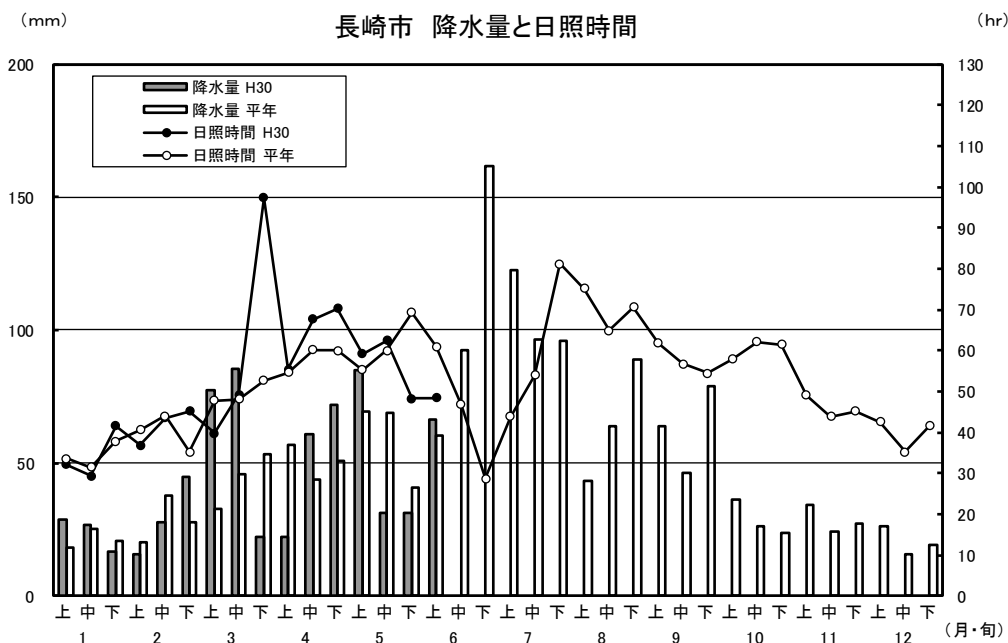
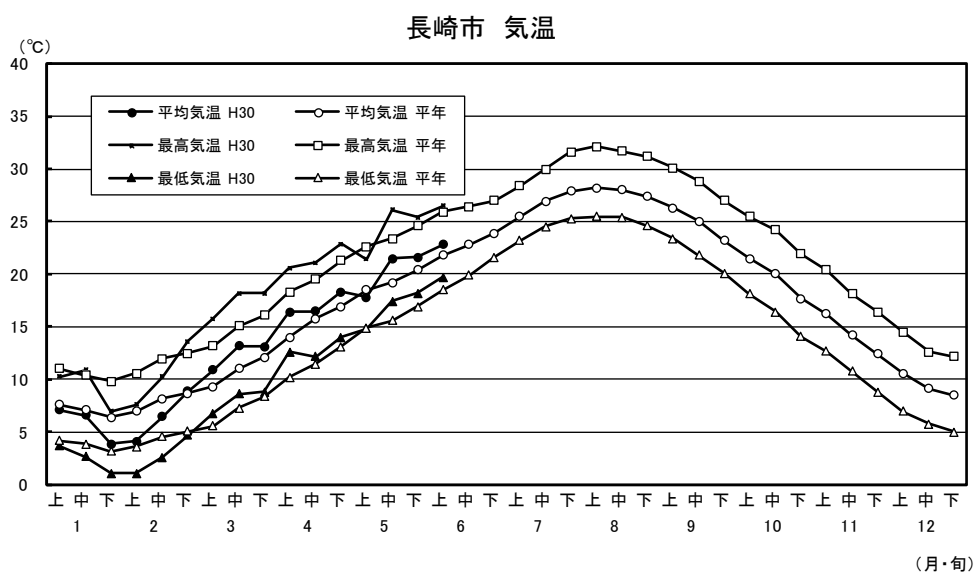
【参考】

(平成30年6月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

平成30年の気象経過（長崎地方气象台）



○6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL : 0957-26-0027

